

# あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.  
**15**

2011 弥生・卯月

鼎談 師家×代表×局長  
「志」を行動へ



# 「志」を行動へ

3年の準備期間を経て、いよいよ組織機構改革が実行段階に入った。金剛禅の特性を生かして、どのように社会に貢献していくのか。少林寺拳法グループ全体の活性化にどうつなげていくのか。少林寺拳法二世師家と金剛禅総本山少林寺代表、宗務局長が組織の可能性と方向性を語り合った。

## 儀式行事の意味を問う

**代表** 開祖生誕100年の今年は、より一層、金剛禅の教えを社会に役立てていく必要性を痛感しています。

「開祖の志」とよくいいますが、志とは、心の底辺にあつて決して忘れることなく、どのように行動を展開していくかまで含まれていると私は思っています。自己主張は志とはいいませんし、世のため人のためになるものがない志は野心でしかありません。そこをはずさずしっかりと捉え、金剛禅の特性を生かして、社会に貢献していきたいと考えています。

そのためには、教えも技術もそうですが、更に研鑽を固める必要があると思つています。少し形骸化しているように感じる部分があります。

**師家** 形骸化というと、儀式行事含めて、すべて見直す必要があるのではないのでしょうか。先日、たまたまニュー

スである仏式の結婚式を見たのですが、新郎新婦をはじめ参列者の方、皆さんですごくいい雰囲気をつくり出していたことが印象的でした。学びの場であり、人々が活性化される場であり、という儀式になっていたのです。

そのとき新たな可能性を感じました。今はマニュアルがありますが、それは必ずしもそのままでなければいけないものではなくて、もつと変えていいと思うのです。開祖がなぜ車座になっていろいろな話をしてきたのかを、真剣に考える必要があると思います。精神的に充実感を味わえ、奮起するきっかけになる、儀式行事はそういう場にならないといけないと思うのです。これは金剛禅教団としてすぐにできることなので、ちょうど開祖生誕100年のこの機会に、見直して、変えてはどうでしょう。

**局長** 儀式そのものは意味があるもので、結婚式しかり、達磨祭しかり、参

列者がそこで気持ちを新たにし、誓い合うきっかけにするために行うはずです。私はすべてが形骸化しているとは思わないのですが、やらないといけないからおざなりにやっている、内容が薄くなつてしまっています。ですから、内容を濃くするためには、もう一度儀式行事の位置づけをしっかりとし、あり方を再確認する必要があると思います。

**師家** ええ、そしてこれは、各道院での、ふだんの活動にとっても影響すると思います。儀式行事が充実して、人の役に立っている実感があると、どんどん普及につながっていくと思います。  
**代表** そうですね。形骸化ではなく、儀式行事を習熟させて伝統にまで高めたいことが理想です。

## 人材を生かす

**師家** 少林寺拳法は誰でもできるといいますが、一般的には決心覚悟をしな



2011年1月14日  
東京研修センターにて  
担当/山下 真由美

いと触れられないというイメージが強いように思います。現在、達磨祭で一般開放はしていますが、もつと誰でも参加できる機会を増やしてはどうでしょう。例えばシンポジウムもよいと思います。そこでは必ず金剛禅の法話があり、ゲストを呼んで講演をしてもいい、かつ体を動かす時間もあつて、気持ちよく2、3時間が終わるといい。  
**代表** 大賛成です。金剛禅には、人材バンクをつくつたらいいと思うくらい、すばらしいノウハウを持っている。方や影響力のある方が各界にいます。そうした方々を結び、コーディネートするのが、金剛禅であり、本山であってもおかしくないと思います。単に技術だけではない金剛禅ならではの大会をできたという願いがあります。

**局長** 金剛禅の大会は、今までも数か所で行われたことがあります。ただ、何をしたらよいかわからず躊躇しているところが多いので、希望する県に



金剛禪総本山少林寺代表 浦田 武尚



少林寺拳法 二世師家 宗 由貴



金剛禪総本山少林寺宗務局長 田村 明

モデルになって大会をしていただいてもよいと思います。あちこちでさまざまなアプローチができるので、金剛禪としての内容が充実してくるので、非常によいと思います。

**師家** また、演武披露に頼らず道院長が講演をすることも大事だと思います。

**代表** 自身は20、30代のころからシンポジウムなどにも積極的に出ていました。各界の第一人者の方々が並ぶ中で、私はそのとき若者代表でした。道院長はどのような場面にも対応できる資質が問われます。金剛禪のあり方が表れるような人格者になってほしいと思います。虚栄、虚飾ではなく、秘めていても内から表れる自信、品格。それが備わっていれば、どこで講演をしても、演武をして見せなくても、人に感動を与えられると思います。

本当の強さというのは、おごりのない自信だと思います。ただしそれは、ふだんからたくさんの経験をして、失敗から学び、考え、工夫して紡ぎだされたものですから、誰でも簡単になれるかというとはいきません。しかし、金剛禪門信徒はそうした指導者になることを目指して修行しているはずです。金剛禪は質の高い人材の団体であるべきだと思います。

**師家** そうですね。また更に、道院長が各地域で、門信徒であるなしに関係なく、人々の相談役のような存在になっただけなら最高ですね。

## 文化としての発展を

**局長** 今回の組織機構改革は、各法人の独自性が発揮できる形に整いましたし、拳士個人としては勉強しやすい環境になったと思っています。

これを機に教団としては、道院や本山内に限らず、求められれば出かけていくなどして、金剛禪としての情報を広く提供できる機会をつくろうと考えています。

**代表** 更に私は、広く世界にも金剛禪の教えを学ぶ方法を考えていけたらと思っています。

**師家** 武道とかスポーツではない形で、各国で認知される方法はないかといつも考えているのですが、いちばんいいのは文化の普及だと思っています。むしろ文化でないとだめだと思います。オリンピックに象徴されるように、少林寺拳法が世界で一つの競技になると、それぞれの国にあわせて変わってもいいのではないかと考えています。しかし、日本文化として、それに賛同する人たちの集まりであれば、どの国に行っても変わることがありません。茶道は国が変わってもお茶碗ちawanがコーヒーカップにはなりませんよね。

**代表** ああ、わかりやすいですね。その可能性はあると思います。少林寺拳法を習いに来た海外の拳士に聞くと、「日本の文化を学びに来ました」と言っています。日本の文化として考えてく

れているのです。

**師家** 同じように少林寺拳法も存在しなければならぬと思うのです。

ですから、人を増やすために、妥協して、譲って、基本を変える必要は全然なくて、そのままの形に賛同する人の集まりでいいと思います。

**局長** そう思います。今回の組織機構改革は、形を整えながら中身を充実させていこうと進んでいるわけですが、金剛禪はもと中身として確固たる教えがあるわけです。地に足をつけた活動をしている道院もたくさんあります。道院同士の連携をとって、更に組織を充実させていきたいですね。

**師家** 全体像がイメージできれば、組織機構改革は大変なことではなくて、将来のために必要なことがわかっていただけたらと思います。最初は戸惑いもあるかもしれませんが、5年たったら当たり前になっていますから。大丈夫です。

**代表** 教えを学ぶだけでは不十分で、学びが心に入り、社会に働きかけていくことが重要です。不正に対して声を上げ、真の平和で豊かな社会の実現を願い、行動することで道になります。道を進むときに、反対意見や障害はつきものですが、勇気を持って敢然と進まなくてはならないと思っています。そうして初めて指導者をひょうぼう標榜できます。手をこまねいて見ているだけでは罪になる。行動していきましょう。

## 第4回広島県教区研修会

### 金剛禪の指導者に 求められる資質

12月12日、広島県教区では、鈴木義勝中国地区担当総代を講師に迎えて、約80人の拳士が集い研修会を実施しました。

坪井事務局長の進行により、瀧本広島県教区長の挨拶から始まりました。続いて、南興・東広島小教区長より地区ごとの道院の活動区域の説明と昇級試験による各道院の交流と教区だよりの発行による活動内容の紹介がありました。次に藤岡PC推進委員より、広島県のPC推進は67・3パーセントですが、4月までには100パーセントに向けて推進したいとの状況報告がありました。

鈴木総代の講演は「金剛禪の指導者とは何か(金剛禪指導者に求められる資質)」がテーマでした。まず、鈴木総代が道院を開設するまでの実体験と少林寺拳法指導者の心構えを説かれました。そして、指導者に求められるものは、ダーマに信心帰依して生かされている信念の下、魂の伝道師として、人づくりに挺身することを喜びと感じられるような境地になるまで、絶え



ず純真無垢(初生の赤子)に修行することであり、指導者の心がけとして次の三点述べられました。1、自己を高めるべく教養を身につけ、易筋行としての少林寺拳法を究める。2、してみせて、説いて聞かせてやらせてみる、出来たらほめる。3、行動力、知行合一、至誠一貫。これが金剛禪指導者に求められる資質である。金剛禪指導者として自己の向上に努めて、生涯修行しなければならぬと講演をされました。(柳田光男)

## 鹿兒島県教区研修会

### 僧階の意義と 運用法実技講習

12月12日、鹿兒島県立武道館にて、鹿兒島県教区講習会として、金剛禪総本山少林寺より川

島一浩事務局長と飯野貴嗣職員をお招きして「僧階の意義について」と「運用法の技術講習」が開催されました。参加者は18道院1支部より51人。

午前中は川島先生が「僧階の意義について」と「教えと運用法について」を、座学を中心に講義され、その後、午後からの運用法の技術講習会に備え両先生による実技を交えての運用法の基礎と基本的な考えについての講義が行われました。午後からは両先生による運用法の基本から指導法そして応用、更に班別(年齢別)に分かれての審判の実技指導の後、班別の討議を行い、最後に運用法を含め、技術に関しての質疑応答が行われました。午前中の講義の中で、「教えと運用法は別々ではなく一体のものである」と話が合ったことから、和気あいあいとした技術研修となりました。

参加した拳士からは、「勉強になった」「先生方の技術のすばらしさに感動した」「次回もこのような講習会を開いてください」との反響がありました。参加者全員が充実した一日を過ごすことができ、両先生に感謝するとともに次回の講習会を楽しみにしています。(田中輝義)

## 新春法会

### 愛知県教区

この地方では7年ぶりの大雪となった1月16日、愛知県教区の新春法会を愛知盟友道院にて開催しました。役職者や小教区長、高段位の道院長を含め、総勢32人が参列したほか、金剛禪総本山少林寺より大西要副代表にご参加いただき、厳しい寒さの中、厳粛に式典が執り行われました。

式典では、深谷求愛知県教区長の導師献香に始まり、教典を全員で唱和し、平井慎司愛知朝日道院長による門信徒代表挨拶では、昨今の世界情勢から国内における混沌とした時勢の中で、道院を起点として金剛禪運動を展開していくという抱負がありました。今年1年の決意を表明した導師年頭挨拶に続き、道訓にある儒教の五徳とは違う「忠・孝」を開祖が思いを込めて記したことなど、ご来賓による祝辞を頂戴し、加藤利彦岡崎中部道院長と加藤智弘愛知吉良道院拳士による迫力ある奉納演武で式典を終了しました。

の中で皆が一樣に今年の抱負を語り合いました。参列者全員が新たな気持ちで本年の一步を踏み出せたと感じる事ができました。(中野勝之)

**大阪府教区**  
1月23日、大阪平野道院にて大阪府教区新春法会を開催いたしました。

大阪府教区の役職者・小教区長・道院長・大阪市会議員・大阪府会議員総勢30人が参列し午前10時から鎮魂行、大北浩士教区長の導師献香、来賓の議員挨拶と続き、出席の議員さんからは「本日の新春法会に出席し、厳正な気持ちになりました。政治家としても現状打破のため何とかしなければならぬ」というご挨拶を頂きました。続いて、大北教区長が「最近の世相と我々が考えるべき方向性」というテーマで法話され、最後に道院長、門信徒を代表して山崎武司道院長が代表決意表明を行い2011年大阪府教区新春法会を締めくくりました。

閉会後は、会食へ移行し各テーブルごとに日本の将来を憂う危機感から我々組織が、また道院長としてなすべき行動について話が大きい盛り上がりしました。(柳野洋一)



## 心を伝える

内修の主行たる鎮魂行。この鎮魂行における教典唱和は我々金剛禪門信徒にとって重要なカテゴリーであるが、ある道院長は教典を新入門の子供たちとともにゆっくりと後に続く感じで唱和し、主座のはつきりとした口調を耳で聞きながらそれを腹に収め、共鳴する感じの唱和となるように口伝くでんとして教えるという。

私も、その後実行しているが、聖句の大いなる意味と、そこに込められた法の真理を言葉の中に込めてゆっくりと抑揚をつけずに唱和すると、最初はそれを聞いているが、何回目かになると先輩につられて少しずつ唱和するようになる。

聖句から始まり、誓願、礼拝詞、そして、修める法の道しるべたる道訓となり、日々の精進の指針となる信条まで、20回くらいの参座で小学1年生でもほとんど唱和に加わるようになり背筋も伸びてくる。

そして、半年くらい経過したころには、道訓の中の言葉について

質問が出る。

「ひとのなんをすくい きゅうをたすけ おしえをたれてひとをみちびき ころをいたしてみちにむかい かをあらためてみずからあらたにし あくねんをたちて いっさいのぜんじを しんじんにぶぎようすれば……」私の言葉が、ここではよりはつきりと聞こえ、「ひとみずといえども」以降で優しい穏やかな感じになるといふ。

言葉に込めた思いの力であるうか、自分自身の魂に問いかけるように行っている鎮魂行が唱和の中で真理として少しずつ伝わっていることを実感した。

自己確立、自他共衆の法門たる少林寺拳法は、鎮魂行で自己に内在する真理を自覚めさせ、易筋行えつきんぎょうで自己の可能性と人への思いやりを自覚し、これらの漸々修学により自らを修める行であることを実感する。

真理の核心は不立文字ふりたつもんじであるゆえに、言葉の行間やその奥は、熱い心で伝えることの大切さに気づく。

心を伝えるとは、まっすぐに張った弦の共鳴であるともいえるのではないのだろうか。

### 開祖語録 ダイジェスト

1975年度  
第3次指導者講習会

自分の信じ方、生き方が問われるときが、諸君にも日常の中でよくあるでしょう。例えば、上役が間違ったことをしてて、こんなこと言って憎まれたりすると損じゃないかと黙っている。しかしそういう自分の姿勢は卑怯ひきょうではないか。いけないと思うなら、いけないと言ったらどうだ。私は少々おせっかいだから、いつもそれをやる。

まあ、こうやって話している私も、心臓が悪いからいつ死ぬかわからない。来年また諸君に会えるかどうか。諸君のほうも来年また来るつもりでも、家の事情や自分の事情そのほかで来られないかもしれない。きょう

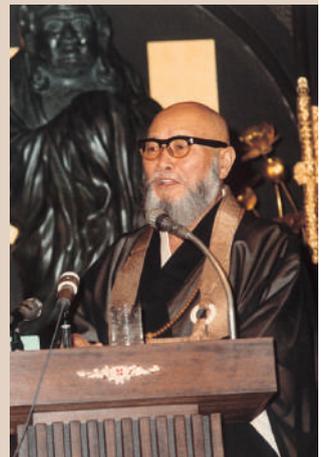
自分に歴史を変えてみんか。自分が歴史を変えてみんか。

帰りに車にはねられるかもしれないし、流れ星が落ちてきて死ぬかもしれない(笑)。

そういう中で我々は生きていくわけで、きょうという日は、あるいは講習会のこの3日間、この機会しかないのである。人生にあすはない。きのうは帰ってこない。その日その日にできることをその日に仕上げたい。これが金剛禪運動の基本的な姿勢である。

努力しなければ状況は変えられんぞ。あきらめないことである。いつか、誰かがやってくれたらうではダメ。自分がやるうと思うてみんか。どうだい、自分が歴史を変えてみんか。

## 金剛禪運動の基本的な姿勢



## 2010年勤続表彰

(順不同)

### ●55年

合田 清一(今治道院)

### ●50年

中村 秋尚(福岡北道院)

### ●45年

勝田 仁(墨田道院)

佐々木 繁士(尾張瀬戸道院)

藤田 昌三(熱田道院)

森 健太郎(江南道院)

山下 咲雄(愛知高上道院)

御田 武尚(大阪松原道院)

大北 浩士(大阪千代田道院)

上野 泰男(岸和田道院)

藤本 義政(姫路白鷺道院)

大池 勝一(宝塚道院)

宮脇 功次(小野田道院)

森 明弘(蔵本道院)

### ●40年

上山 馨(伊達道院)

小笠原 章一(茨城取手道院)

黒澤 正興(横浜慈眼寺道院)

西井 秀一(富山東道院)

深谷 求(三好道院)

高井 敏夫(岡崎こだるま道院)

西尾 武(寝屋川道院)

栩野 洋一(大阪茨木道院)

島田 忠幸(赤穂道院)

三前 雅信(南部道院)

山崎 武史(須須道院)

### ●35年

川村 砂都志(函館巴道院)

砂野 芳弘(多賀城道院)

荒井 照通(馬頭道院)

桑原 誠(君津道院)

渡来 士郎(松戸相模台道院)

山本 幸男(船橋金杉道院)

渡辺 和夫(調布道院)

中村 一夫(板橋弥生道院)

福田 一明(横浜霊峰道院)

麻生 修善(高岡古城道院)

高倉 正明(石川辰口道院)

坪井 晃(浜北道院)

古橋 義夫(遠江西道院)

鈴木 保信(名古屋笠寺道院)

美濃羽 均(稲沢道院)

原 為雄(名古屋吹上道院)

山下 啓(豊中桜塚道院)

斉喜 博美(貝塚水間道院)

古林 晋(神戸北道院)

西山 正則(多聞道院)

砂川 健次郎(高砂鹿島道院)

原谷 和男(大和五條道院)

道脇 重治(奥和歌道院)

垣内 欣久(湯浅道院)

瀧本 保夫(福山東道院)

斉藤 豊志(阿南橋道院)

湯浅 茂(小松島東道院)

蔭山 秀夫(徳島川内道院)

倉本 光(坂出中央道院)

本田 穰司(川之江道院)

竹之内 親男(串間道院)

### ●30年

今井 雅之(旭川東道院)

藤谷 弘志(秋田大曲道院)

浅野 安司(福島泉崎道院)

菊池 進(茨城竜ヶ崎道院)

赤崎 義昭(大宮道院)

坂本 有助(秩父道院)

能勢 功(千葉白旗道院)

高橋 三男(柏道院)

馬込 政秋(あきる野道院)

石村 政雄(目白道院)

菅野 明洋(東京成瀬道院)

多田 勝彦(川崎幸道院)

三枝 勝日(横浜片倉道院)

杉森 鉄之助(立山道院)

前多 永憲(石川志雄道院)

佐治木 光夫(長野中部道院)

青山 継雄(遠江中道院)

久留島 則夫(天竜二俣道院)

都留 好一(正眼道院)

橋本 憲二(小牧篠岡道院)

安田 茂(愛岐錬成館道院)

加藤 孝(愛知吉良道院)

大河内 智(津中央道院)

乾 秀樹(三重多気道院)

横田 輝夫(京都城陽道院)

岡 寛(梅津道院)

辻崎 竹彦(宇治岡屋道院)

大戸 昭幸(箕面道院)

磨家 正明(大東道院)

溝淵 秀樹(大阪伝法道院)

豊福 成人(和泉黒鳥道院)

田原 辰也(相生道院)

寺田 正一(二上山道院)

臼井 章夫(和歌山東道院)

木村 弘史(境港道院)

花江 幹男(下関道院)

西田 和廣(福岡東道院)

水流園 勝廣(筑前古賀道院)

奥村 重吉(門司港道院)

水田 健一(筑後道院)

廣津 智一(行橋美夜古道院)

仲村 文博(博多南道院)

木村 潔(長崎西道院)

飯塚 久雄(島原城南道院)

岩本 良通(牛深道院)

山本 清治(南伊豆道院)

### ●20年

相沢 仁(秋田八竜道院)

塩田 政栄(郡山開成道院)

原 新一(群馬多々良道院)

鈴木 正輝(所沢竜王道院)

竹内 章(千葉志津道院)

大房 泰明(日野大空道院)

坂井 勝利(東京篠崎道院)

中村 博文(箱根仙石原道院)

野村 良一(横須賀馬堀道院)

林 隆司(綾瀬深谷道院)

田浦 誠一郎(新潟加茂道院)

木戸 薫(富山南道院)

松田 彰寿(岐阜穂積道院)

松下 知司(浜松江東道院)

多田野 正美(愛知御津道院)

北恵 武行(安城文山道院)

佐久間 静春(名古屋なるこ道院)

岡田 義夫(西尾東道院)

川村 友喜(愛知赤池道院)

南出 哲男(三重上野道院)

濱崎 哲也(三重津東道院)

小谷 誠孝(近江伊香道院)

中村 太(泉北桃山台道院)

水野 高廣(大阪桂道院)

森本 收(東大阪塚道院)

甘野 正男(富田林金剛道院)

麻生 信義(神崎道院)

谷口 正樹(姫路山田道院)

宮本 勉(奈良香芝道院)

井戸家 正旺(東吉野道院)

赤木 基悦(和歌山大塔道院)

持田 典子(松江中部道院)

須原 正二(津山西道院)

広岡 福夫(岡山西道院)

松林 義明(福山西道院)

伊内 章二(脇町東道院)

浦 一(福岡中央道院)

後藤 義郎(中津西道院)

吉野 信弘(宮崎青島道院)

### ●13年

高野 誠一(八戸南郷道院)

### ●10年

山田 茂夫(白河東道院)

勝田 茂勝(成田道院)

石田 重行(八千代睦道院)

諸星 文一(横浜軽井沢道院)

菅井 和明(新潟朝日道院)

森田 康裕(上越新井道院)

畑山 光夫(能登押水道院)

清水 康之(甲府中部道院)

平下 俊彦(関小金田道院)

加藤 伸弘(岩倉道院)

間瀬 美香(武豊みなみ道院)

樋高 光広(愛知春日道院)

原田 学喜(岡崎滝道院)

坂田 要(犬山北道院)

中野 勝之(愛知平和道院)

山田 忠嗣(愛知佐屋道院)

中西 勝彦(伊賀名張道院)

川向 啓造(三重島ヶ原道院)

八木 克之(京都八幡道院)

片山 明彦(京都太秦道院)

安嶋 正悟(伏見丹波橋道院)

定塚 俊二(大阪浄正道院)

中居 義朗(和泉緑ヶ丘道院)

津田 勉(豊島西道院)

渡部 順一(大阪東成道院)

森本 勝也(奈良大安寺道院)

高町 憲明(学園大和道院)

濱田 享二(海南亀川道院)

中屋 好夫(和歌山金屋道院)

北野 幸太郎(箕島糸我道院)

今井 聖子(岡山桜が丘道院)

福本 光夫(岡山玉野道院)

山下 真司(讃岐府中道院)

末光 健太郎(伊予松南道院)

中川 英幸(松山北道院)

藤田 憲幸(中間南道院)

渡邊 弘一(小倉南部道院)

重吉 増子(中津東道院)

### 少林寺拳法グループ表彰

夏川 勉(新潟不二道院)

滋賀県少林寺拳法連盟

京都府少林寺拳法連盟

大阪府少林寺拳法連盟

兵庫県少林寺拳法連盟

奈良県少林寺拳法連盟

和歌山県少林寺拳法連盟

関西実業団少林寺拳法連盟

関西学生少林寺拳法連盟

近畿高等学校少林寺拳法連盟

### 少林寺拳法グループ感謝状

愛知県少林寺拳法連盟

### 3月の本山行事

19日(土) 僧階補任講習(少法師)・本山委員会・特別昇格考試  
20日(日) 特別昇格考試

### 4月の本山行事

2日(土) 少林寺拳法創始者宗道  
臣生誕100年記念 Shorinji Kempo

Meeting in <sup>みまさか</sup>美作〜レディース & ファミリーズ

3日(日) 宗道ご母堂ご令妹記念  
碑除幕式

23日(土) 都道府県教区長研修会・  
会議

24日(日) 帰山



宗務局長 田村 明

## vol.15 「談他過失戒」「自讚毀他戒」

# 清風

菩薩としての理想の生き方を示すべく制定された「大乘戒」というのがある。種類は「三聚淨戒」「十重禁戒」「四十八輕戒」の三種類である。

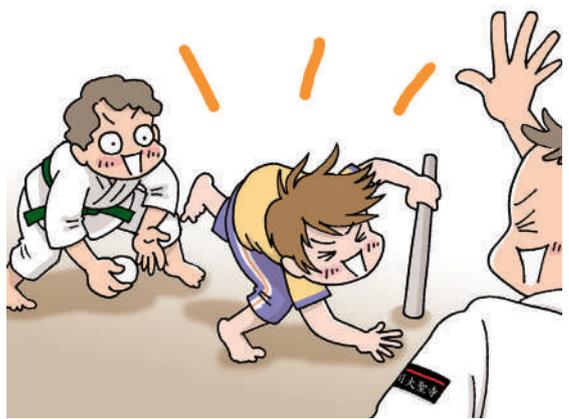
その「十重禁戒」について、新大乘の秋月龍珉老師はこの中から「談他過失戒」「自讚毀他戒」の二つをあげ、他人の過失を談じ、自らを讚め他を毀るのは、まだ真に積尊の説く「無我」に徹していない証拠であり、心の底のどこかに「おれが……おまえが」という自他の対立が、いわゆる「人我の見」が残っていると述べている。

我々の世界は自分と他人しかない。そこで重要になってくるのが自他共楽の教えである。

自慢話をする人は、なかなか人の話を聞かない。人の悪口を言う人は自分が見えていない。「強いつもりで弱いのが根性、弱いつもりで強いのが自我」と格言でいう。

金剛禪では、人を思いやる気持ちは「半ばは自己の幸せを、半ばは他人の幸せを」で語られているが、大乘では自我について「談他過失戒」「自讚毀他戒」とここで具体的にいつている。これがわからねば、自他共楽は実現できないのである。

## 一期一笑



イラスト/大原由軌子

### 子供たちの力

母親と一緒に見学に来たT君、友達である拳士の誘いもそのままに、一人遊びをする子であった。私を相手に遊ぶことはあっても、練習が始まると母親のそばに戻って離れない。そこで、しばらくお母さんは道場の送り迎えだけにしていただくようお願いをした。すると、その日のうちに変化が。

後日、友達と一緒に来たT君は、皆と野球をすることになった。「僕は野球はしらんもん」と尻込みをするT君。さあ私の出番、と出ていこうとしたそのとき、先輩拳士の一人が「簡単簡

単、こうやるんだよ」と、手取り足取り世話をした。ボールを投げる子もそっとゆつくり投げてやる。周りの子供たちは「そこだ打て、T君、もう少し」と勇気づける。T君はいつしかニコニコ笑ひ遊びの輪に溶け込んでいた。その後の練習も、私が出しせずとも、友達が隣にいて、不安そうなT君をかばう。皆もよってたかつて基本動作や突き、蹴りを教える。

この日、T君は笑いながら元気よく、皆と一緒に帰って行った。子供たちはすごい指導者だ。子供たちに教えられた貴重な一日であった。今後が楽しみだ。(石川大聖寺道院・大家正己)

投稿大募集 道場や拳士のちょっとしたいい話を募集しています。  
※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。  
なお、原稿内容の整理・編集をさせていただきます場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-17-5  
東京別院 広報誌担当宛 TEL.03-5961-1400 FAX.03-5961-1401  
e-mail : aun@shorinjikempo.or.jp

## 宗道臣デーのてびき 『いま新たな一歩』

「開祖の志」「宗道臣デーの沿革」「宗道臣語録」などを掲載しています。この冊子には、宗道臣デーをより有意義にするためのヒントがたくさん詰まっています。5月の「宗道臣デー」を行うにあたって、事前の勉強会に、ご活用ください。



1冊150円(税込み)

## 宗道臣生誕100年記念 オリジナルワッペン

1枚400円(税込み)

開祖のまなざし(ワッペン)が私たちを見つめています。道衣の左袖(所属袖章の下)に付けて、修練しましょう!



お求めは連盟本部事業部へ

## 宗門の行としての少林寺拳法



Ryuka Ken,  
りゅう かけん  
龍華拳

Kiri Gote  
きり ごて  
切小手

後ろにねじ上げようとして、手首を掴<sup>つか</sup>んできた相手の裏側に出て、まず鉤<sup>かぎ</sup>手で守る。続けて左手を添えて手首を殺し、手刀の形にした右手を、相手の左手首に巻きつかせ、足を捌<sup>さば</sup>きながら相手の正面に向く。すると相手の腕の形がS字になり、右肩がやや前方に出て、体が崩れる。崩しの動きに合わせて、手刀部分で自分の腹に引き落とすようにして極める。

撮影／近森千展 文／飯野貴嗣 演武者／守者：川島一浩 正範士七段 攻者：飯野貴嗣 大拳士六段

**表紙**▶河合修 愛知県出身。日本を代表する写真家・藤井秀樹氏のアシスタントを経て独立。2009年5月より「ダーマ」をテーマに、『あ・うん』の表紙撮影に取り組む。ホームページは「写真家 河合修」で検索！ 名古屋千種道院、中拳士三段。

**編集後記**▶太平洋側では異常な乾燥が記録的日数を数える。一方日本海側では豪雪による交通渋滞や家屋の倒壊、除雪作業での痛ましい事故の発生。▶金剛禅総本山少林寺は、「調和の世界」を説く。とはいえ自然界(ダーマ)の力には逆らえない。環境に対応した人智の営みにより文化が生み出される。▶機構改革元年の具体的実施に関する一環が初動した。門信徒各自による「マイページ登録」から始まる。(あ)

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイト  
<http://www.shorinjikempo.or.jp/aun/index.html>

2週ごとに更新される代表メッセージをはじめ、金剛禅布教活動に役立つコンテンツを段階的に充実させていきます。また、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

少林寺拳法

検索

発行人：浦田武尚 発行所：金剛禅総本山少林寺 〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48 ☎0877-33-1010 <http://www.shorinjikempo.or.jp>  
編集人：秋吉好美 企画・編集：金剛禅総本山少林寺東京別院 〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-17-5 ☎03-5961-1400 e-mail [aun@shorinjikempo.or.jp](mailto:aun@shorinjikempo.or.jp)  
金剛禅総本山少林寺広報誌『あ・うん』 2011年3月1日発行(奇数月1日発行)通巻第15号 印刷・製本：(株)ブル・ドック

※本誌の発行に掛かる費用には、SHORINJI KEMPO UNITY によるライセンス事業の収益金が活用されています。

※現在、広報誌『あ・うん』を1道院につき10部ずつ(財団支部は1部ずつ)、毎号ご提供させていただいております。更に追加をご希望の方は本山宗務部にお申し出ください。(追加1部につき50円を口座引き落とし・送料別途要) TEL.0877-33-1010 e-mail [fukyoka@shorinjikempo.or.jp](mailto:fukyoka@shorinjikempo.or.jp)



SHORINJIKEMPO